

IX 資料集

岡山県立倉敷工業高等学校	71
宮城県仙台市立仙台工業高等学校	75
北海道帯広工業高等学校	80
委員会設置要項	84
実践研究校	86
委員名簿	86

表1 ルーブリック (機械科2年 機械実習：材料試験実習)

()科 ()年 ()組 ()番 氏名() 科目(実習) テーマ(熱処理)

時間	【時間目】	【時間目】	【時間目】	【振り返り】
活動内容	実験実習に関する原理、理論、実験実習方法の理解及び実験実習準備	実験実習の実践	まとめ	どのような資質・能力が身についたか記入せよ
社会基力	<p>前に踏み出す力 (アクション)</p> <p>主体性 働きかけ力 実行力</p> <p>【授業に積極的に参加できる】</p> <p>指導項目 [本日の授業の内容、実験方法、データ処理についてが理解できているか]</p> <p>評価項目 [主体性・働きかけ力・実行力]</p> <p>G: 十分な結果が得られ、資質・能力を習得できた A: 結果が得られ、資質・能力を習得できた B: 資質・能力を習得できた C: 資質・能力の習得が不十分であった D: 資質・能力の習得に努力を要する</p>	<p>【学んだことを生かし授業に参加できる】</p> <p>指導項目 [実験実習について理解し、協力して正しく実験ができたか]</p> <p>評価項目 [主体性・働きかけ力・実行力]</p> <p>G: 十分な結果が得られ、資質・能力を習得できた A: 結果が得られ、資質・能力を習得できた B: 資質・能力を習得できた C: 資質・能力の習得が不十分であった D: 資質・能力の習得に努力を要する</p>	<p>【課題や理論を理解し、実験実習のまとめができる】</p> <p>指導項目 [自ら率先して実験のまとめができる]</p> <p>評価項目 [主体性・働きかけ力・実行力]</p> <p>G: 十分な結果が得られ、資質・能力を習得できた A: 結果が得られ、資質・能力を習得できた B: 資質・能力を習得できた C: 資質・能力の習得が不十分であった D: 資質・能力の習得に努力を要する</p>	【前に踏み出す力】
	<p>考え抜く力 (シンキング)</p> <p>課題発見力 計画力 創造力</p> <p>【課題や理論を理解し準備、作業を計画できる】</p> <p>指導項目 [熱処理(焼きなまし・焼きならし・焼き入れ・焼きもどし)の、原理、理論は理解できているか]</p> <p>評価項目 [課題発見力・計画力・創造力]</p> <p>G: 十分な結果が得られ、資質・能力を習得できた A: 結果が得られ、資質・能力を習得できた B: 資質・能力を習得できた C: 資質・能力の習得が不十分であった D: 資質・能力の習得に努力を要する</p>	<p>【課題や理論を理解し、授業に積極的に参加できる】</p> <p>指導項目 [仮説を立て実験に取り組み、十分な結果が得られたか]</p> <p>評価項目 [課題発見力・計画力・創造力]</p> <p>G: 十分な結果が得られ、資質・能力を習得できた A: 結果が得られ、資質・能力を習得できた B: 資質・能力を習得できた C: 資質・能力の習得が不十分であった D: 資質・能力の習得に努力を要する</p>	<p>【得られた結果を理解し、実験実習のまとめができる】</p> <p>指導項目 [実験結果から熱処理の効果を理解できた]</p> <p>評価項目 [課題発見力・計画力・創造力]</p> <p>G: 十分な結果が得られ、資質・能力を習得できた A: 結果が得られ、資質・能力を習得できた B: 資質・能力を習得できた C: 資質・能力の習得が不十分であった D: 資質・能力の習得に努力を要する</p>	【考え抜く力】
	<p>チームで働く力 (チームワーク)</p> <p>発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力</p> <p>【他者と協力して、準備ができる】</p> <p>指導項目 [班活動の役割分担、準備はできているか]</p> <p>評価項目 [発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール]</p> <p>G: 十分な結果が得られ、資質・能力を習得できた A: 結果が得られ、資質・能力を習得できた B: 資質・能力を習得できた C: 資質・能力の習得が不十分であった D: 資質・能力の習得に努力を要する</p>	<p>【他者と協力して、実験実習ができる】</p> <p>指導項目 [実験方法を理解し、安全に実験ができたか]</p> <p>評価項目 [発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール]</p> <p>G: 十分な結果が得られ、資質・能力を習得できた A: 結果が得られ、資質・能力を習得できた B: 資質・能力を習得できた C: 資質・能力の習得が不十分であった D: 資質・能力の習得に努力を要する</p>	<p>【他者と協力し、実験実習のまとめができる】</p> <p>指導項目 [班で協力しデータ処理ができる]</p> <p>評価項目 [発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール]</p> <p>G: 十分な結果が得られ、資質・能力を習得できた A: 結果が得られ、資質・能力を習得できた B: 資質・能力を習得できた C: 資質・能力の習得が不十分であった D: 資質・能力の習得に努力を要する</p>	【チームで働く力】
自分の役割				まとめ
実習を振り返って	各時間において、自分の取り組んだこと、感想等を記入せよ。			

表2 ルーブリック（電気科1年 電気実習：電気計測実習Ⅱ）

活動段階		【 40分 】	【 40分 】	【 20分（家庭学習） 】	
活動内容		実験実習に関する原理、理論、実験実習方法の理解 【実習の目的・理論・実験方法などについて興味・関心を持って学習し、理解することができた】	実験の実践（準備・結線・測定） 【理論や手順を理解し、注意事項を意識しながら主体的に他者と協力して実習に取り組むことができた】	まとめ（データ処理・考察・レポート作成） 【自分の力でデータ処理を行い、レポートを作成、考察をまとめ説明することができた】	
評価項目（資質・能力）					
社会 人 基 礎 力	前に踏み出す力 （アクション）	主体性 働きかけ力 実行力	①【主体性】 A：事前に今日の実習内容を予習し、忘れ物などなかった。 B：事前に今日の学習内容を確認し、忘れ物などなかった。 C：忘れ物なかった。 D：忘れ物が1つだけあった。 E：忘れ物が複数あった。	⑥【主体性・実行力】 A：指示を待つことなく、常に自ら進んで実験に取り組んだ。 B：指示を待つことなく、進んで実験に取り組んだ。 C：自分のペースで実験に取り組んだ。 D：ときどき指示を待つことがあった。 E：指示を受けるまで何をしていたかわからなかった。 ⑦【働きかけ力】 A：常に班員をリードして、的確な指示を出しながら実験を行った。 B：班員に指示を出すことが多かった。 C：班員に指示を出すことも、受けることもほとんどなかった。 D：班員の指示を受けることの方が多かった。 E：班員の指示を常に待っていた。	⑨【主体性・実行力】 A：データ処理等に、常に自分の力で、進んで取り組んだ。 B：データ処理等に、ほとんど自分の力で、進んで取り組んだ。 C：データ処理等に、友達と相談しながら、取り組んだ。 D：データ処理等に、なかなか取り組む気持ちにならなかった。 E：データ処理等に、取り組むことができなかった。
	考え抜く力 （シンキング）	課題発見力 計画力 創造力	②【課題発見力】 A：実験の目的・理論・方法などについてすべて完全に理解できた。 B：実験の目的・理論・方法などについて概ね理解できた。 C：実験の目的・理論・方法などについてたいたい理解できた気がする。 D：実験の目的・理論・方法などについて複数箇所理解できない所があった。 E：実験の目的・理論・方法などについて全く理解することができなかった。	④【計画力】 A：必要な機器を、班員と協力してすぐに準備し、機器の配置も工夫した。 B：必要な機器を、班員と協力してすぐに準備することができた。 C：必要な機器を、班員と協力して準備することができた。 D：必要な機器を、他の班に教えてもらって準備することができた。 E：必要な機器を、指導者の助言を受けて準備することができた。	⑩【創造力】 A：実験結果について、きちんと考察をまとめることができた。 B：実験結果について、考察をまとめることができた。 C：友人と相談しながら、何とか考察をまとめることができた。 D：考察をまとめられないところがあった。 E：考察をまとめることができなかった。
	チームで働く力 （チームワーク）	発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力	③【傾聴力】 A：説明を落ち着いた態度で、メモを取りながら集中して丁寧に聞くことができた。 B：説明を落ち着いた態度で、メモを取りながら聞くことができた。 C：説明を落ち着いた態度で、聞くことができた。 D：説明を聞く態度に、落ち着きがないことがあった。 E：説明をまともに聞くことができなかった。	⑤【状況把握力】 A：結線は、班員と協力して、すぐに正しくできた。 B：結線は、班員と協力して、時間はかかったが正しくできた。 C：結線は、班の他の人がほとんど行った。 D：結線は、他の班の人に教えてもらってできた。 E：結線は、指導者の助言を受けてできた。 ⑧【規律性】 A：注意事項を常に意識し、装置や機器等を大切に扱った。 B：注意事項を意識することがあり、装置や機器等を大切に扱った。 C：注意事項を意識することはなかったが、装置や機器等を大切に扱った。 D：注意事項や機器の取扱い方をほとんど意識することはなかった。 E：機器の取扱い方を間違い、壊した。または、壊しかけた。	⑪【発信力】 A：考察内容など得られたことを、分かりやすく工夫して説明することができた。 B：考察内容など得られたことを、分かりやすく説明することができた。 C：考察内容など得られたことを、何とか説明することができた。 D：考察内容など得られたことを、ヒントをもらいながら説明することができた。 E：考察内容など得られたことを、一度では説明することができなかった。

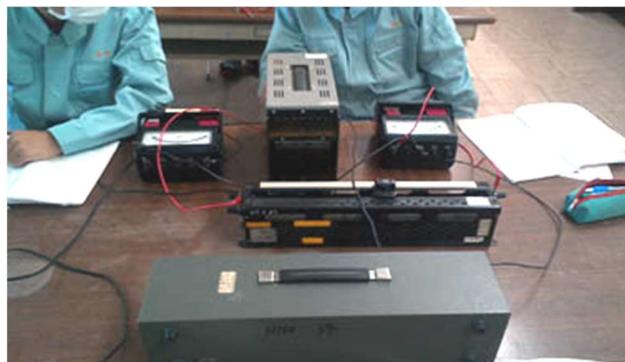
表3 自己評価シート（電気科1年 電気実習：電気計測実習Ⅱ）

項目	評価段階	評価
①【主体性】 関心・意欲・態度	事前準備	A：事前に今日の実習内容を予習し、忘れ物などなかった。 B：事前に今日の学習内容を確認し、忘れ物などなかった。 C：忘れ物はなかった。 D：忘れ物が1つだけあった。 E：忘れ物が複数あった。
	理由	
②【課題発見力】 関心・意欲・態度	目的	A：実験の目的・理論・方法などについてすべて完全に理解できた。 B：実験の目的・理論・方法などについて概ね理解できた。 C：実験の目的・理論・方法などについてほしい理解できた気がする。 D：実験の目的・理論・方法などについて複数箇所理解できない所があった。 E：実験の目的・理論・方法などについて全く理解することができなかった。
	理由	
③【傾聴力】 関心・意欲・態度	理論	A：説明を落ち着いた態度で、メモを取りながら集中して丁寧に聞くことができた。 B：説明を落ち着いた態度で、メモを取りながら聞くことができた。 C：説明を落ち着いた態度で、聞くことができた。 D：説明を聞く態度に、落ち着きがないことがあった。 E：説明をまともに聞くことができなかった。
	理由	
④【計画力】 思考・判断・表現	実験準備	A：必要な機器を、班員と協力してすぐに準備し、機器の配置も工夫した。 B：必要な機器を、班員と協力してすぐに準備することができた。 C：必要な機器を、班員と協力して準備することができた。 D：必要な機器を、他の班に教えてもらって準備することができた。 E：必要な機器を、指導者の助言を受けて準備することができた。
	理由	
⑤【状況把握力】 技能	配線	A：結線は、班員と協力して、すぐに正しくできた。 B：結線は、班員と協力して、時間はかかったが正しくできた。 C：結線は、班の他の人がほとんど行った。 D：結線は、他の班の人に教えてもらいできた。 E：結線は、指導者の助言を受けてできた。
	理由	
⑥【主体性・実行力】 関心・意欲・態度	実験	A：指示を待つことなく、常に自ら進んで実験に取り組んだ。 B：指示を待つことなく、進んで実験に取り組んだ。 C：自分のペースで実験に取り組んだ。 D：ときどき指示を待つことがあった。 E：指示を受けるまで何をしていたか分からなかった。
	理由	

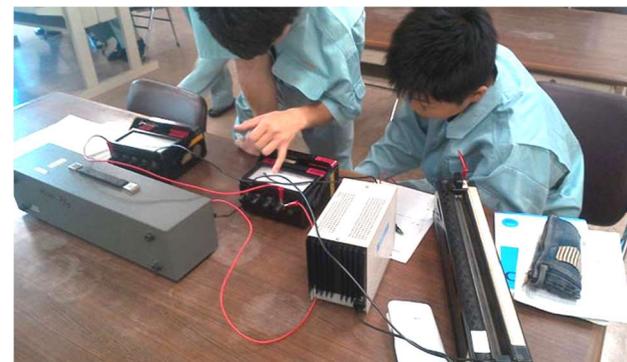
⑦【働きかけ力】 関心・意欲・態度	実験	A：常に班員をリードして、的確な指示を出しながら実験を行った。 B：班員に指示を出すことが多かった。 C：班員に指示を出すことも、受けることもほとんどなかった。 D：班員の指示を受けることの方が多かった。 E：班員の指示を常に待っていた。
	理由	
⑧【規律性】 関心・意欲・態度	実験	A：注意事項を常に意識し、装置や機器等を大切に扱った。 B：注意事項を意識することがあり、装置や機器等を大切に扱った。 C：注意事項を意識することはなかったが、装置や機器等を大切に扱った。 D：注意事項や機器の取扱い方をほとんど意識することはなかった。 E：機器の取扱い方を間違い、壊した。または、壊しかけた。
	理由	
⑨【主体性・実行力】 思考・判断・表現	まとめ	A：データ処理等に、常に自分の力で、進んで取り組んだ。 B：データ処理等に、ほとんど自分の力で、進んで取り組んだ。 C：データ処理等に、友達と相談しながら、取り組んだ。 D：データ処理等に、なかなか取り組む気持ちにならなかった。 E：データ処理等に、取り組むことができなかった。
	理由	
⑩【創造力】 知識・理解	まとめ	A：実験結果について、きちんと考察をまとめることができた。 B：実験結果について、考察をまとめることができた。 C：友人と相談しながら、何とか考察をまとめることができた。 D：考察をまとめられないところがあった。 E：考察をまとめることができなかった。
	理由	
⑪【発信力】 思考・判断・表現	まとめ	A：考察内容など得られたことを、分かりやすく工夫して説明することができた。 B：考察内容など得られたことを、分かりやすく説明することができた。 C：考察内容など得られたことを、何とか説明することができた。 D：考察内容など得られたことを、ヒントをもらいながら説明することができた。 E：考察内容など得られたことを、一度では説明することができなかった。
	理由	
今回の実習で意識したこと（成果を含む）		
自分には足りないと思う資質・能力（どのようになりたいか）		



電気実習
タブレット端末を活用した指導



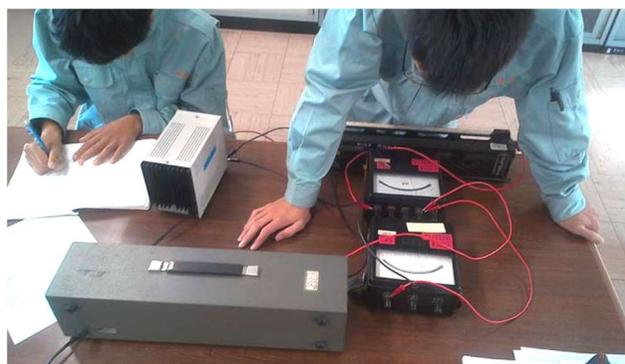
【評価：A】 実験しやすく機器の配置を工夫し、役割を分担し協力して実験を行っている。



【評価：B】 実験しやすく機器の配置を工夫しているが、一人で測定している。



【評価：C】 測定はしやすいが、操作機器と測定器の配置が不適切である。



【評価：D】 測定器の配置が不適切で、一人で測定している。



【評価：E】 測定器の配置が非常に不適切で、一人で測定している。

図1 タブレット端末記録画像と評価（A～E）の例

「PROGRESS SHEETS(成長の記録)」について

「プログレスシート」は、プロジェクト学習活動の中で、どのような行動や学習をしたのか、振り返りをしていくシートです。社会人として必要とされる資質・能力要素に照らした自己アセスメント、そして成長の記録、プロジェクトでの役割やチームとしての成果などをまとめていきます。

必要とされる資質・能力とは

社会人として、職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力のことで(下表参照)。

アセスメント

今回の活動の中で、「いつ、どんな状況で、どのような努力や工夫することにより発揮したか」という行動事実を記録し、以下の基準に照らして、アセスメントを実施していきます。

		要素	5	4	3	2	1
人間関係形成・社会形成能力	自他の理解能力・コミュニケーション力	主体性 物事に進んで取り組む力	自分の役割に意義を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分でできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分でできることや能力を活かすことができる。	自分でできることや能力を自覚できている。	自分が何ができるのかを把握していない。
		働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力	周囲の人を動かして目標を達成する行動力をもっている。	他者に協力することの必要性を伝えることができる。	他者と協働して課題に取り組もうとしている。	課題に取り組もうとはするが、他者との協働が十分にできていない。	他者に関わろうとせず、課題に対する関心も不十分である。
		発信力 自分の意見をわかりやすく伝える力	相手の理解度を確認しながら、それに合わせて柔軟に表現を調整し、自分の意見や気持ち・感情を明確に伝えられる。	具体的な例や根拠をあげながら、自分の意見を論理的に伝えられる。	自発的に相手に自分の意見を伝えることができる。しかし、具体性や論理性が不足している。	自分の意見は明確になっているが、他者に伝えることを控えてしまうことが多い。相手がよく耳を傾けてくれたり、適切な問いかけをしてくれる場合には、自分の意見を伝えることができる。	自分の意見が明確になっておらず、何を伝えていいのかかわからない。
		傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力	適切に問いかけたり、対話したりすることを通じて、相手から新しい気づきや着想をひきだすことができる。	相手の意見に耳を傾け、その意見内容ばかりではなく、その背景にある価値観や心情も理解できる。	相手の意見に耳を傾け、相手の視点に立つてものごとを考えることができる。	相手の意見に耳を傾け、自分の視点から解釈することができる。	相手の意見に耳を傾けようという努力をしない。
		柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力	自分とは異なった価値観を持つ他者とともに、共有できる理念や目標を見つけ出し、協力しあうことができる。	自分の意見を主張するばかりではなく、相手の意見を尊重しながら説得できる。	自分と他者の意見の共通点や相違点を見つけられる。	自己の主張にこだわり、他者の意見を聞こうとしない。	初対面の相手に対して、自分から声をかけることができない。
課題対応能力	課題解決能力	課題発見力 現状分析し目的や課題を明らかにする力	自分自身が意義や価値を見出し、意欲的に取り組めるような問題点や疑問点を見つけられることができる。	自分がいま取り組んでいる課題にとどまらず、自発的に新しいものごとに目をむけて興味関心の幅を広げて、新たな問題点や疑問点を探そうとする。	自分がいま取り組んでいる課題のなから、問題点や疑問点を探し出すことができる。	いくつかの問題点や疑問点を選択として与えられれば、その中から取り組んでみたいものを選ぶことができる。	自分がどんな疑問や興味関心をもっているのかわからない。どんなことに取り組みたいのかわからない。
		計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる	常に計画と進捗状況の違いに留意している。	作業に優先順位をつけて、実現性の高い計画を立てられる。	他から与えられた計画を受身的に消化する。	無計画にものごとを進めようとする。
		創造力 新しい価値を生み出す力	複数のアイデアを統合したり、組み合わせたりすることによって、さらに創造的なアイデアを数多く生み出すことができる。	ひとつのアイデアをさらにふくらませたり、発展させたりすることができる。	自分の日常的な考え方や視点にもとづいて問題を検討し、自分らしいアイデアをだすことができる。	問題に対して、いくつかのアイデアを出すことができるのが、他者からの引き写しの範囲を抜け出さない。	問題に対してアイデアをだすことができない。

【事後】アセスメントシート

氏名		学科		記入日	平成 年 月 日
科目名	課題研究(4学科共通)		担当教員		菊地 雅彦・橋本 正裕

自己分析	人間関係形成・社会形成能力	自他の理解能力・コミュニケーション能力	要素	事前レベル	中間レベル	事後レベル	具体的行動事実 (自分の成長を行動事実で記載する)
			主体性				
			働きかけ力				
			発信力				
			傾聴力				
			柔軟性				
	課題対応能力	課題解決能力	課題発見力				
			計画力				
			創造力				

活用した専門知識・スキル	関連科目	内容
活動成果		
役割としての活動		

教員からのアドバイス		教員検印

出前授業 目標の設定とパフォーマンス評価

科 番 氏 名

右のQRコードからアクセスし、下記の基準表で評価して入力してください。

A班はB班をパフォーマンス評価する。

B班はA班をパフォーマンス評価する。



必要とされる資質・能力とは

社会人として、職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力のことで（下表参照）。

アセスメント

今回の活動の中で、「いつ、どんな状況で、どのような努力や工夫することにより発揮したか」という行動事実を記録し、以下の基準に照らして、アセスメントを実施していきます。

☆☆学習活動の評価基準です。自分の目標を定めて活動に臨んでください。☆☆

		要素	目標	5	4	3	2	1
人間関係形成・社会形成能力	自他の理解能力・コミュニケーション力	主体性 物事に進んで取り組む力		自分の役割に意義を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分にできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分にできることや能力を活かすことができる。	自分にできることや能力を自覚できている。	自分に何ができるのかを把握していない。
		働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力		周囲の人を動かして目標を達成する行動力をもっている。	他者に協力することの必要性を伝えることができる。	他者と協働して課題に取り組もうとしている。	課題に取り組もうとはするが、他者との協働が十分にできていない。	他者に関わろうとせず、課題に対する関心も不十分である。
		発信力 自分の意見をわかりやすく伝える力		相手の理解度を確認しながら、それに合わせて柔軟に表現を調整し、自分の意見や気持ち・感情を明確に伝えられる。	具体的な例や根拠をあげながら、自分の意見を論理的に伝えられる。	自発的に相手に自分の意見を伝えることができる。しかし、具体性や論理性が不足している。	自分の意見は明確になっているが、他者に伝えることを控えてしまうことが多い。相手がよく耳を傾けてくれたり、適切な問いかけしてくれる場合には、自分の意見を伝えることができる。	自分の意見が明確になっておらず、何を伝えていいのかわからない。
		傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力		適切に問いかけたり、対話したりすることを通じて、相手から新しい気づきや着想をひきだすことができる。	相手の意見に耳を傾け、その意見内容ばかりではなく、その背景にある価値観や心情も理解できる。	相手の意見に耳を傾け、相手の視点に立ってものごとを考えることができる。	相手の意見に耳を傾け、自分の視点から解釈することができる。	相手の意見に耳を傾けようという努力をしない。
		柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力		自分とは異なった価値観を持つ他者とともに、共有できる理念や目標を見つけ出し、協力しあうことができる。	自分の意見を主張するばかりではなく、相手の意見を尊重しながら説得できる。	自分と他者の意見の共通点や相違点を見つけられる。	自己の主張にこだわり、他者の意見を聞こうとしない。	初対面の相手に対して、自分から声をかけることができない。
課題対応能力	課題解決能力	課題発見力 現状分析し目的や課題を明らかにする力		自分自身が意義や価値を見出し、意欲的に取り組めるような問題点や疑問点を見つけすることができる。	自分がいま取り組んでいる課題にとどまらず、自発的に新しいものごとを目をむけて興味関心の幅を広げて、新たな問題点や疑問点を探そうとする。	自分がいま取り組んでいる課題のなかから、問題点や疑問点を探し出すことができる。	いくつかの問題点や疑問点を選択して与えられれば、その中から取り組んでみたいものを選ぶことができる。	自分がどんな疑問や興味関心をもっているのかわからない。どんなことに取り組みたいのかわからない。
		計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力		進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる	常に計画と進捗状況の違いに留意している。	作業に優先順位をつけて、実現性の高い計画を立てられる。	他から与えられた計画を受動的に消化化する。	無計画にものごとを進めようとする。
		創造力 新しい価値を生み出す力		複数のアイデアを統合したり、組み合わせたりすることによって、さらに創造的なアイデアを数多く生み出すことができる。	ひとつのアイデアをさらにふくらませたり、発展させたりすることができる。	自分の日常的な考え方や視点にもとづいて問題を検討し、自分らしいアイデアをだすことができる。	問題に対して、いくつかのアイデアを出すことができるが、他者からの引き写しの範囲を抜け出さない。	問題に対してアイデアをだすことができない。

タブレットの入力画面

個人 パフォーマンス評価	土木科	12番	織田久典	戻る
目標	①小学校高学年のものづくりに対する興味・関心の実態調査などを行う。 ②ものづくりの楽しさを伝えるための出前授業の企画書（学習指導案）を考える。 ③企画書（学習指導案）は訪問先の校長先生にプレゼンする。 ④小学校を訪問し、自律ロボットのプログラミング出前授業を実施する。			
向上させたい 資質・能力	もっとプロジェクトに積極的に参加する。			
活動成果	被数の小学生に物事を教えるのは初めてでした。それぞれの小学生の理解度が違うので全員が理解できるように考えながら教えました。このことから、教えるというのは教えられる方だけでなく、教える方も考えて教えるのが大切だということを学ぶことができました。今回、学んだことを就職後も活かしていこうと思います。			
主体性	物事に進んで取り組む力	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	
5	自分の役割に意義を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	5	自分とは異なった価値観を持つ他者とともに、共有できる理念や目標を見つけ出し、協力しあうことができる。	
4	自分でできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	4	自分の意見を主張するばかりではなく、相手の意見を尊重しながら説得できる。	
○ 3	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分でできることや能力を活かすことができる。	○ 3	自分と他者の意見の共通点や相違点を見つけられる。	
2	自分でできることや能力を自覚できている。	2	自己の主張にこだわり、他者の意見を聞こうとしない。	
1	自分が何ができるのかを把握していない。	1	初対面の相手に対して、自分から声をかけることができない。	
働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	課題発見力	現状分析し目的や課題を明らかにする力	
5	周囲の人を動かして目標を達成する行動力をもっている。	5	自分自身が意義や価値を見出し、意欲的に取り組めるような問題点や疑問点を見つけることができる。	
4	他者に協力することの必要性を伝えることができる。	4	自分がいま取り組んでいる課題にとどまらず、自発的に新しいものごとを目をむけて興味関心の輪を広げて、新たな問題点や疑問点を探そうとする。	
○ 3	他者と協働して課題に取り組もうとしている。	○ 3	自分がいま取り組んでいる課題のなかから、問題点や疑問点を探し出すことができる。	
2	課題に取り組もうとはするが、他者との協働が十分にできていない。	2	いくつかの問題点や疑問点を選択して与えられれば、その中から取り組んでみたいものを選ぶことができる。	
1	他者に関わろうとせず、課題に対する関心も不十分である。	1	自分がどんな疑問や興味関心をもっているのかわからない。どんなことに取り組みたいのかわからない。	
発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	
5	相手の理解度を確認しながら、それにあわせて柔軟に表現を調整し、自分の意見や気持ち・感情を明確に伝えられる。	5	進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる	
4	具体的な例や根拠をあげながら、自分の意見を論理的に伝えられる。	4	常に計画と進捗状況の違いに留意している。	
○ 3	自発的に相手に自分の意見を伝えることができる。しかし、具体性や論理性が不足している。	○ 3	作業に優先順位をつけて、実現性の高い計画を立てられる。	
2	自分の意見は明確になっているが、他者に伝えることを控えてしまうことが多い。相手がよく耳を傾けてくれたり、適切な問いかけをしてくれる場合には、自分の意見を伝えることができる。	2	他から与えられた計画を受身的に消化する。	
1	自分の意見が明確になっておらず、何を伝えていいのかわからない。	1	無計画にものごとを進めようとする。	
傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	創造力	新しい価値を生み出す力	
5	適切に問いかけたり、対話したりすることを通じて、相手から新しい気づきや着想をひきだすことができる。	5	複数のアイデアを統合したり、組み合わせたりすることによって、さらに創造的なアイデアを数多く生み出すことができる。	
4	相手の意見に耳を傾け、その意見内容ばかりではなく、その背景にある価値観や心情も理解できる。	4	ひとつのアイデアをさらにふくらませたり、発展させたりすることができる。	
○ 3	相手の意見に耳を傾け、相手の視点に立ってものごとを考えることができる。	○ 3	自分の日常的な考え方や視点にもとづいて問題を検討し、自分らしいアイデアをだすことができる。	
2	相手の意見に耳を傾け、自分の視点から解釈することができる。	2	問題に対して、いくつかのアイデアを出すことができるのが、他者からの引き出しの範囲を抜け出さない。	
1	相手の意見に耳を傾けようという努力をしない。	1	問題に対してアイデアをだすことができない。	

スマートフォンの入力画面



パフォーマンス評価

活動の様子を評価してみよう！

次へ

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・追加規約

Google フォーム



パフォーマンス評価

活動の様子を評価してみよう！

主体性

1 2 3 4 5

○ ○ ○ ○ ○

働きかけ力

1 2 3 4 5



パフォーマンス
評価

回答を記録しました。

[前の回答を表示](#)

[回答を編集](#)

[別の回答を送信](#)

表1 インターンシップ指導計画

平成28年度 電子機械科実習 計画書

学年：2学年 単元：インターンシップ

時数	授業内容	授業内容	指導方法	備考 (使用物品など)
1	(1) インターンシップ全体説明	インターンシップの意義について 社会人基礎力についての説明 評価基準表・評価表について 各会社の概要説明（担当者から）	全体説明 社会人基礎力プリント説明 現段階での社会人基礎力を 基準表を用いて自己評価 企業ごとに説明	・社会人基礎力プリント ・社会人基礎力基準表、評価表
2	(2) インターンシップ事前学習	インターンシップを実施するにあたり、身に付けることのできる能力をグループごとに討議し、どのように取り組むことで、達成することができるかを、班別にまとめて発表する。 ・ルーブリックに示された基準を確認し、社会が求める人材と自分が目標とする能力を整理し、このインターンシップを通して、何を学ぶべきかを考え、班別にまとめて発表する ・育成すべき資質・能力の自己評価	グループ学習 ・ブレインストーミング ・KJ法によるまとめ 口頭発表 基準表を用いた自己評価	・事前学習ワークシート ・付箋 インターンシップ 事前事後学習基準表、評価表
3 ～ 20	(3) インターンシップ (三日間)	・各企業先にてインターンシップ ・事前学習で行った準備、気を付けるべき点、学びたい点、取り組み方の観点を活用しながらインターンシップを行う	・インターンシップ日誌を記入 ・自己評価	インターンシップ日誌
21 ～ 22	(4) インターンシップ事後学習①	・インターンシップ先で得た経験をグループ学習によって共有し、一枚のワークシートにまとめる。 ・異なるインターンシップ先での経験をワークシートを活用した発表をすることで各人の経験を共有する ・インターンシップ報告発表会に向けてまとめとする	グループ学習 ・ブレインストーミング（ワークシート・付箋） ・KJ法によるまとめ 口頭発表（ポスター発表） 基準表を用いた自己評価、他者評価	・事後学習ワークシート ・付箋 インターンシップ 事前事後学習基準表、評価表
23 ～ 25	(5) インターンシップ報告発表会	・インターンシップ先で得た経験を各企業ごとに口頭発表。 ・効果的なプレゼンテーションを行うために基準表を元に到達点を意識させる プレゼンテーションに関する基準表を用いた自己・他者評価 ・育成すべき資質・能力の自己評価	・インターンシップ発表会 基準表の説明 ・インターンシップ発表会 基準表・評価表	インターンシップ 報告発表会基準表、評価表 インターンシップ 事前事後学習基準表、評価表
26	(6) インターンシップ事後学習②	・インターンシップ準備期間から発表会までを通して得たもの、感じたものを感想文にまとめる。 ・各企業に向けてのお礼状の作成		・社会人基礎力基準表、評価表

表2 インターンシップ指導計画

「電子機械実習」学習指導案

指導日時	平成28年9月 日	科目名	電子機械実習	単位数	4 単 位
学年・学科	電子機械科 2年	教科担任			
使用教材	教科書	なし			
	補助教材	ワークシート（自作プリント）、模造紙、付箋紙			
単元名	インターンシップ事後学習				
本時の目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを実施し、事前学習でまとめた身に付けたい能力の育成に関して、どのように取り組み達成してきたかをグループごとに討議し、班別にまとめて発表する。 ・ループリックに示された基準を確認し、社会が求める人材と自分が目標とする能力を整理し、このインターンシップを通して、何を学ぶべきかを考え、班別にまとめて発表する。 				

学習指導案

段階	生徒の学習活動	指導上の留意点（声かけ）	評価規準
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容の確認 ・本時のねらい ・ワークシートの配布 ・グループ分け ・KJ法を活用したブレインストーミングの説明 ・模造紙・付箋紙の配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時における学習の内容を確認させる。 ・グループワークでの作業があることを説明する。 (人に任せっきりにせず、主体的に取り組むことを指導する。)【主体性】 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度
展開 (80分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの記入 ・グループに分かれ、ワークシートの各設問について討議する。 →グループごとにまとめる ・グループ内で話し合った内容をワークシートを用いて発表する。 →他の班のワークシート発表を簡潔に評価する。 ・質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いへの参加状況を確認する。 (多角的に考え、課題を明確にできるか考えさせる。)【課題発見力】 ・机間巡視を行い、各班の活動状況を確認するとともに、質問に対して対応する。 (参加に消極的な生徒に対し、発語を促すような助言を行う。)【主体性】 ・他のグループのワークシートを見ながら説明を聞き、評価票記入をさせる。 (発表時のワークシートのまとめ方・声量・態度などを意識させる。)【主体性・実行力】 (他のグループの考えや意見を柔軟に受け入れることを意識させる。)【柔軟性・課題発見力】 ・気になることや意見などを討議させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度 ・技能 ・思考・判断・表現 ・技能 ・思考・判断・表現 ・関心・意欲・態度 ・関心・意欲・態度 ・知識・理解
終末 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の授業を受けての振り返り →ワークシートの記入 <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 ・教員評価 ・感想・意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の本時の目標を達成できているかを確認する。 ・少ない時間内で記入させるため、書ききれない生徒が出た場合、休み時間や放課後に提出をさせる。 	

【目標】

- ・インターンシップを実施するにあたり、身に付けることのできる能力について考え、自分自身がどのように取り組むことで達成することができるかをまとめる。
- ・ルーブリックに示された基準を確認し、社会が求める人材と自分が目標とする能力を整理し、このインターンシップを通して、何を学ぶべきかを考えまとめる。
- ・自分を客観的に見つめて、自分に何が足りないのか、どんな能力を伸ばしたいのかを考えまとめる。

「評価の目安」 「A」を「十分満足できる」とし「C」を「努力を要する」として5段階評価とする。
 A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する

帯コンピテンシー	基礎的汎用的能力	社会人基礎力要素	評価軸	A	B	C	事前自己評価	事後自己評価
帯コンピテンシー	自己理解・自己管理能力	主体性	関心・意欲・態度	自ら目標を設定し、自分のすべきことを理解した上で、積極的に取り組むことができた。	自分のすべきことを理解した上で、積極的に取り組むことができた。	指示がなければ取り組みなかった。	A・B・C	A・B・C
				指示を待たずに、自ら行動を起こすことができた。	自ら行動を起こすことができた。	指示を待たなければ、行動を起こせなかった。	A・B・C	A・B・C
				自分の役割をしっかりと理解し、その責任を果たすことができた。	自分の役割を果たすことができた。	自分の役割を果たせなかった。	A・B・C	A・B・C
	課題発見力	課題対応能力	思考・判断・表現	現状を的確に把握し、分析することで問題点を明確に見出すことができた。	現状を把握し、問題点を明確に見出すことができた。	指示を受けて問題点を見出せた。	A・B・C	A・B・C
				取り組んでいる事柄について、多角的に検証し、改善することができた。	取り組んでいる事柄について、検証し、改善することができた。	取り組んでいる事柄に精一杯だった。	A・B・C	A・B・C
				常に「気づき」を意識し、幅広い視野で物事をとらえることができた。	常に「気づき」を意識し物事をとらえることができた。	「気づき」が意識できなかった。	A・B・C	A・B・C
	実行力	柔軟性	知識・理解	目標を自ら設定し、その目的に対してあきらめずに、取り組むことができ、確実な実行ができた。	目標に対してあきらめずに、取り組むことができ、実行ができた。	目標に対して取り組みあきらめてしまった。	A・B・C	A・B・C
				多少の困難があろうとも、改善をして乗り越えていける力を持っていた。	多少の困難があろうとも、乗り越えていける力を持っていた。	困難に対し、あきらめてしまった。	A・B・C	A・B・C
				チーム内での役割を十分に理解し、自分のすべき責務を果たすことができた。	チーム内での役割を理解し、自分のすべき責務を果たすことができた。	チーム内での役割を理解できず、自分の責務を果たすことができなかった。	A・B・C	A・B・C
	人間関係形成・社会形成能力	柔軟性	知識・理解	自分のやり方やルールにこだわらず、相手の意見や立場を尊重し、その場に応じた最適の対応ができた。	相手の意見や立場を尊重し対応ができた。	相手の意見や立場を尊重し対応ができなかった。	A・B・C	A・B・C
				他の人間と意見交換を円滑に行い、協調して物事を進めることができた。	他の人間と協調して物事を行うことができた。	他の人間と協調して物事を行えなかった。	A・B・C	A・B・C
				向上心を持ち、より良い内容となる意識を常に持っていた。	向上心を常に持っていた。	向上心を持っていなかった。	A・B・C	A・B・C

事前総合評価	主体性	課題対応能力	実行力	柔軟性	全体
各項目の評価をつけてみよう(平均値 / 評定)					

事後総合評価	主体性	課題対応能力	実行力	柔軟性	全体
各項目の評価をつけてみよう(平均値 / 評定)					

☆評価の考え方 それぞれの要素のA・B・Cを「5～1」に数値化し、次の表で項目ごとの評価を出してください

小単元の評価	数値化
A	5
B	3
C	1

判断する数値の平均値の範囲	
4 < 平均値	A
2 ≤ 平均値 ≤ 4	B
平均値 ≤ 2	C

☆インターンシップでは、自分自身どのように取り組みたい？

☆インターンシップを振り返り、反省すべき点を考えてみよう！

☆担当教員からのアドバイス

図2 インターンシップ評価基準表(生徒向)

帯広工業高等学校	所属	電子機械科	科	生徒氏名
事業所名				ご担当者名

「評価の目安」 「A」を「十分満足できる」とし「C」を「努力を要する」として5段階評価とする。

A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する

帯 コ ン ピ テ ン シ ー	基礎的汎用的能力	社会人基礎力要素	評価観点	A	B	C	評価
	自己理解・自己管理能力	主体性	関心・意欲・態度	自ら目標を設定し、自分のすべきことを理解した上で、積極的に取り組むことができた。	自分のすべきことを理解した上で、積極的に取り組むことができた。	指示がなければ取り組めなかった。	A・B・C
指示を待たずに、自ら行動を起こすことができた。				自ら行動を起こすことができた。	指示を待たなければ、行動を起こせなかった。	A・B・C	
自分の役割をしっかりと理解し、その責任を果たすことができた。				自分の役割を果たすことができた。	自分の役割を果たせなかった。	A・B・C	
課題発見力		思考・判断・表現	現状を的確に把握し、分析することで問題点を明確に見出すことができた。	現状を把握し、問題点を明確に見出すことができた。	指示を受けて問題点を見出せた。	A・B・C	
			取り組んでいる事柄について、多角的に検証し、改善することができた。	取り組んでいる事柄について、検証し、改善することができた。	取り組んでいる事柄に精一杯だった。	A・B・C	
			常に「気づき」を意識し、幅広い視野で物事をとらえることができた。	常に「気づき」を意識し物事をとらえることができた。	「気づき」が意識できなかった。	A・B・C	
課題対応能力		実行力	技能	目標を自ら設定し、その目的に対してあきらめずに、取り組むことができ、確実な実行ができた。	目標に対してあきらめずに、取り組むことができ、実行ができた。	目標に対して取り組みずあきらめてしまった。	A・B・C
				多少の困難があろうとも、改善をして乗り越えていける力を持っていた。	多少の困難があろうとも、乗り越えていける力を持っていた。	困難に対し、あきらめてしまった。	A・B・C
				チーム内での役割を十分に理解し、自分のすべき責務を果たすことができた。	チーム内での役割を理解し、自分のすべき責務を果たすことができた。	チーム内での役割を理解できず、自分の責務を果たすことができなかった。	A・B・C
人間関係形成・社会形成能力	柔軟性	知識・理解	自分のやり方やルールにこだわらず、相手の意見や立場を尊重し、その場に合った最適の対応ができた。	相手の意見や立場を尊重し対応ができた。	相手の意見や立場を尊重し対応ができなかった。	A・B・C	
			他の人間と意見交換を円滑に行い、協調して物事を進めることができた。	他の人間と協調して物事を行うことができた。	他の人間と協調して物事を行えなかった。	A・B・C	
			向上心を持ち、より良い内容となる意識を常に持っていた。	向上心を常に持っていた。	向上心を持っていなかった。	A・B・C	

生徒へのメッセージをお願いします(良かった点、改善点、今後のアドバイスなど)

図3 インターンシップ評価基準表(企業向)

評価手法研究委員会設置要項

(設置)

第1条 平成25～27年度に実施された文部科学省委託事業「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の調査研究」を本協会主催で継続することを目的に評価手法研究委員会(本委員会と略称)を設置する。

本委員会は6名(委員長1名、委員5名)で構成される。

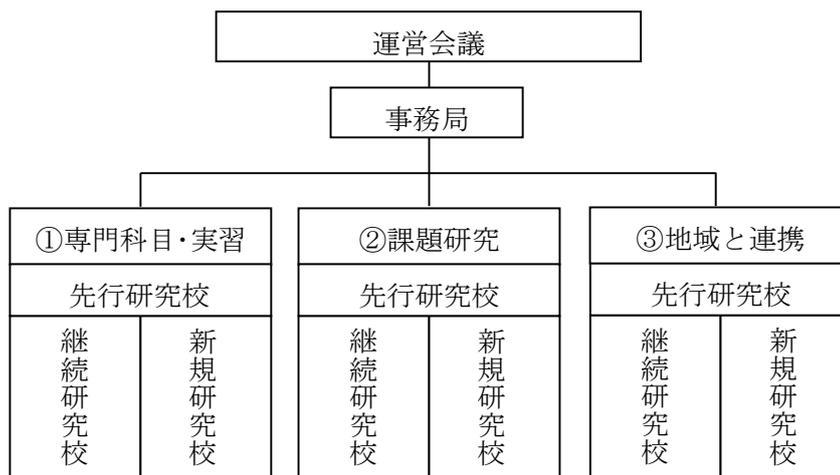
(活動)

第2条 工業高校教育の「質の保証」を担保するために、工業高校で成果をあげている多面的評価を各学校における妥当性のある評価に転換し、学習の成果に妥当性を与える活動をする。

工業高校教育を特色づける分野(専門科目、実習、課題研究、地域と連携など)における評価手法及び指導方法の実践研究を通して、求められる資質・能力の評価手法を向上させる。

(組織)

第3条 下図の組織構成で本委員会の活動を実施する。



(運営会議)

第4条 運営会議(本会議と略称)は本委員会活動に必要な事項を検討し、理事会の承認を得て実施する。

第5条 本会議の構成員は理事会の承認を得て委嘱する。

(事務局)

第6条 事務局は全工協会内におき、局長、次長、委員1名で構成し、活動に必要な連絡、調整をする。

(研究校)

第7条 実践研究校は、新規研究校、継続研究校そして先行研究校で構成し、年度ごとに委嘱される。

実践研究校の活動は「実践研究」、「研究深化」、「普及活動」、「研究支援」で構成される。

新規研究校は、公募により委嘱され、該当年度から新規に評価手法を実践研究する。

継続研究校は、新規研究校から継続して研究を深化させ、成果を校内外に普及させる。

先行研究校は、必要に応じて運営会議が委嘱し、主に普及活動や他校の研究を支援する。

(研究)

第8条 研究は三つの分野(①専門科目・実習、②課題研究、③地域と連携)とする。

第9条 各研究分野は原則として継続研究校1校と新規研究校1校の計2校で構成する。

(活動報告)

第10条 本委員会の活動成果は報告冊子にまとめられるとともに、総会研究協議会等で報告する。

(期間)

第11条 評価手法研究委員会は平成33年度末まで活動する。

(次期学習指導要領改訂 高校は平成34年度から年次進行により実施予定 H27.11 文部科学省 HP)

(付則)

この要項は平成28年6月21日から施行する。

平成29年2月3日一部(研究校)を改正し、平成29年4月1日から施行する。

実践研究校

カテゴリー	実践研究校	学校代表	研究代表者
① 専門科目・実習	岡山県立倉敷工業高等学校	檜原 靖 校長	野瀬 稔幸
	東京都立蔵前工業高等学校	渡邊 隆 校長	鈴木 邦夫
	山口県立下関工科高等学校	上田 設也 校長	春日 貴江
② 課題研究	仙台市立仙台工業高等学校	西尾 正人 校長	橋本 正裕
	宮崎県立宮崎工業高等学校	竹下 弘一郎校長	徳永 浩三
③ 地域と連携	北海道帯広工業高等学校	福井 誠 校長	大西 益巳
	東京都立多摩工業高等学校	早川 信一 校長	千葉 政英

評価手法研究委員

氏名	職名	備考
原田 昭	元日本工業大学・教授	委員長
小山 宣樹	元和歌山県立和歌山工業高校・校長	
鳥居 雄司	元東京都教職員研修センター・教授	
山田 勝彦	(公社)全国工業高等学校長協会・局長	
石井 末勝	(公社)全国工業高等学校長協会・次長	
馬淵 直	(株)ベネッセコーポレーション調査研究課	

平成 28 年度
工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の調査研究

平成 29(2017)年 3 月 31 日
公益社団法人 全国工業高等学校長協会
株式会社 ベネッセコーポレーション